

平成31年度 「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」に関わる「共同研究班」 研究報告書

令和2年4月30日現在

研究課題名	近現代の中央ユーラシアに関する共同研究		
担当者	氏名		所属機関・職
	1	宇山智彦	スラブ・ユーラシア研究センター・教授
	2	長縄宣博	スラブ・ユーラシア研究センター・教授
班員	氏名	所属機関・職	専門とする研究分野
	吉村貴之	東京大学・学術研究員	アルメニア近現代史
	研究テーマ		
	アルメニア近現代史		
班員	氏名	所属機関・職	専門とする研究分野
	塩谷哲史	筑波大学人文社会系・助教	中央アジア近現代史
	研究テーマ		
	中央アジア近現代史		
班員	氏名	所属機関・職	専門とする研究分野
	藤澤 潤	神戸大学大学院人文科学研究科・講師	ソ連史・冷戦史
	研究テーマ		
	ソ連のアフガニスタンからの撤退とコメコン		

研究成果の概要

本年度は、国際関係を地域研究に取り込むことに重点を置きつつ、担当者2名と班員1名が中央ユーラシア近現代史の教科書執筆に参加した。また、モスクワの高等経済学院と共催の国際シンポジウム「帝政ロシアの地方再訪」で塩谷哲史は、19世紀から現在までのグレートゲームのイメージの持続性に関するセッションを組織した。個別の研究として塩谷は、近代中央アジアのおもに对外関係史にかかわる学会報告を行い、あわせて19世紀の中央アジアにおける王権のあり方、ロシア帝国の中央アジアにおける対外交渉、ロシアと中央アジアの間の開発構想をめぐる相克に焦点を当てた。また2月にセンターで、『軍事論集』をはじめとする同図書室所蔵の近代中央アジアの对外関係史にかかわる文献の調査・分析を行った。藤澤潤は、アーカイヴ調査に基づき、1980年代

後半のソ連のコメコン政策について、アフガニスタンなどの域外途上国およびモンゴル、キューバ、ヴェトナムの非欧州加盟国に対する経済協調の試みを軸に分析した。その結果、この時期のソ連指導部は、東欧諸国に対して域外途上国に対する支援の協調は以前ほど要求しなくなった一方で、非欧州加盟国の域内経済協力への統合をより強く主張するようになり、これがソ連・東欧間の新たな論争点になっていたことを解明した。吉村貴之は、20世紀前半の日本で商館を営みつつ、慈善事業に取り組んだ女性ディアナ・アブガリアン（Diana Abgaryan 英名 Diana Apcar, 1859-1937）について、日本の難民・国籍政策に新たな光を当てる報告を2月にセンターで行った。

主な発表論文等（雑誌論文、学会発表、図書 等）※謝辞の有無について明記願います。

宇山智彦「カザフ知識人とイスラーム：遊牧民社会の近代化の方向性をめぐって」野田仁、小松久男編著『近代中央ユーラシアの眺望』山川出版社、2019年、97-116頁。（謝辞無）

宇山智彦「近代帝国間体系のなかのロシア：ユーラシア国際秩序の変革に果たした役割」秋田茂編『グローバル化の世界史』ミネルヴァ書房、2019年、211-240頁。（謝辞無）

塩谷哲史「19世紀中葉オレンブルグにおける交易について」今村薫編著『牧畜社会の生態』名古屋学院大学総合研究所、2019年、17-27頁。（謝辞無）

塩谷哲史「19世紀コングラト朝ヒヴァ・ハン国の君主像」野田仁、小松久男編著『近代中央ユーラシアの眺望』山川出版社、2019年、118-139頁。（謝辞無）

塩谷哲史『転流：アム川をめぐる中央アジアとロシアの五〇〇年史』風響社、2019年、全60頁。

Shioya Akifumi, “The Treaty of Ghulja Reconsidered: Imperial Russian Diplomacy Toward Qing China in 1851,” *Journal of Eurasian Studies* 10, no. 2 (2019), pp.147-158.

Jun Fujisawa, “The Soviet Union, the CMEA, and the Nationalization of the Iraq Petroleum Company, 1967–1979”, Anna Calori, Anne-Kristin Hartmetz, Bence Kocsev, James Mark, Jan Zofka eds., *Between East and South: Spaces of Interaction in the Globalizing Economy of the Cold War* (Berlin: DeGruyter, 2019), pp. 59-84. (謝辞無)

Jun Fujisawa, “Development Aid within the Socialist Bloc. The Soviet Union, the CMEA and Mongolia”, *Legacy of the CMEA Cooperation*, Chelyabinsk State University, 12.5.2019. (謝辞無)

Jun Fujisawa, “CMEA on the Eve of Perestroika. Summit Meeting of CMEA countries in June 1984”, *Cold War East-West Divide. Conflict, Cooperation and Trade*, Valahia University of Târgoviște, Romania, 6.9.2019. (謝辞無)

Norihiro Naganawa, “Elusive Piety: Hajj Logistics and Local Politics in Tatarstan, Dagestan, and the Crimea,” *Religion, State & Society* 47, no. 3 (2019), pp. 307-324. (謝辞無)

長縄宣博「帝国の協力者か攪乱者か：ロシア帝国のタタール人の場合」野田仁、小松久男編著『近代中央ユーラシアの眺望』山川出版社、2019年、287-304頁。（謝辞無）

当該研究活動を基に応募中の研究プロジェクト（科研費等）

※枠を調整することは構いませんが、ページは追加しないでください。